

2022年3月期 第1四半期 決算説明資料

第98期：第1四半期累計期間
(2021年4月1日～2021年6月30日)

2021年7月28日

太平洋工業株式会社

(説明なし)

目次

1. 第1四半期業績
2. 2021年度通期予想
3. 今期重点取り組み

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

2/15

(説明なし)

1-1 1Q 連結業績



販売回復と原価改善により、1Qとして過去最高益を更新

(億円、%)

	2020年度 1Q実績	2021年度 1Q実績	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	238	415	+176	+74.2
営業利益	△22	過去最高 33	+56	-
営業利益率	△9.4%	8.1%	+17.5P	-
経常利益	△17	過去最高 38	+56	-
経常利益率	△7.5%	9.4%	+16.9P	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	△12	過去最高 28	+41	-
四半期純利益率	△5.5%	7.0%	+12.5P	-
平均為替レート (米ドル)	108.0円	109.9円	+1.9円	-

※2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額は以下の通りです。利益への影響は軽微です。

売上高は、金型費用回収の一括認識により2億円増加、客先受給品の売上高と売上原価の相殺表示により12億円減少しております。

3/15

今期の1クォーターは、グローバルで自動車メーカーの稼働の停止した前期と比べ、大幅な増産となり、当社グループの売上高は、前年同期比74%増の415億円で、2019年度並みに回復しました。

なお、収益認識基準の適用により、従来基準から10億円のマイナス影響が含まれています。

利益については、販売回復と収益改善、固定費削減等を継続的に推進したことにより、営業利益は33億円、経常利益は38億円、四半期純利益が28億円と、1Qとしては、いずれも過去最高の利益となりました。

なお、収益認識基準の適用による利益への影響は軽微です。

1-2 1Q 連結営業利益 増減要因

販売回復と原価改善により、過去最高益を達成



営業利益は、主に販売物量の回復と原価改善により、前期 1Q の 22 億円の赤字から、56 億円の増益となりました。

1-3 1Q 連結事業別セグメント



プレス・樹脂、バルブともに増収増益の黒字

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	20/1Q 実績	21/1Q 実績	前年同期比		20/1Q 実績	21/1Q 実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
プレス・樹脂	157	283	+126	+80.1	△21	15	+36	-
(収益認識適用の影響)		(△10)						
営業利益率					△13.5%	5.4%	+18.9P	
バルブ	80	131	+50	+62.9	△1	18	+19	-
(収益認識適用の影響)		(△0)						
営業利益率					△1.7%	14.2%	+15.9P	

※2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。利益への影響は軽微です。

5/15

プレス・樹脂事業の売上高は、前年度同期比 80%増の 283 億円、営業利益は 36 億円増の 15 億円となりました。なお、収益認識基準の適用による影響で、売上高は 10 億円、従来基準よりも減少しています。これは、金型費用回収の一括計上による影響で、2 億円増加していることと、客先受給品の売上高と原価の相殺表示の影響で、12 億円減少していることによるものです。

バルブ事業の売上高は 62%増の 131 億円、営業利益は 19 億円増の 18 億円となりました。当事業セグメントにおいては、収益認識基準の適用による影響は軽微です。

1-4 1Q 連結地域別セグメント



日本、欧米、アジアともに増収増益の黒字

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	20/1Q 実績	21/1Q 実績	前年同期比		20/1Q 実績	21/1Q 実績	前年同期比	
			増減	増減率			増減	増減率
日本	122	175	+53	+43.4	△12	18	+31	-
(収益認識適用の影響)		(△10)						
営業利益率					△10.3%	10.6%	+20.9P	
欧米	74	161	+86	+116.0	△9	6	+16	-
営業利益率					△13.0%	4.1%	+17.1P	
アジア	40	77	+36	+90.3	△1	8	+9	-
営業利益率					△2.7%	10.7%	+13.4P	

※2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。利益への影響は軽微です。

6/15

日本、欧米、アジアの全地域で販売物量が回復し、増収増益となりました。

日本の売上高は前年同期比 43%増の 175 億円、営業利益は 31 億円増の 18 億円、

欧米の売上高は 116%増の 161 億円、営業利益は 16 億円増の 6 億円、

アジアの売上高は 90%増の 77 億円、営業利益は 9 億円増の 8 億円となり、

中国、タイ、台湾、韓国、いずれの事業体でも増収増益となりました。

2-1 通期 連結業績予想



1Q実績を踏まえ、最新の予測を織り込み、2Q累計・通期予想を上方修正

(億円、%)

	2020年度		2021年度		前期比			
	2Q累計実績	通期実績	2Q累計予想	通期予想	2Q累計増減	2Q累計増減率	通期増減	通期増減率
売上高	648	1,504	830	1,640	+181	28.0%	+135	9.0%
営業利益	8	89	65	125	+56	654.1%	+35	39.3%
営業利益率	1.3%	6.0%	7.8%	7.6%	+6.5P	-	+1.6P	-
経常利益	13	112	70	140	+56	433.1%	+27	24.8%
当期純利益	9	79	50	100	+40	450.8%	+20	25.3%
ROE	-	7.6%	-	8.5%	-	-	+0.9P	-
ROA(営業利益ベース)	-	4.2%	-	5.4%	-	-	+1.2P	-
一株当り純資産	-	1,846円	-	2,021円	-	-	175円	9.5%
平均為替レート(米ドル)	106.4円	105.4円	110.2円	107.5円	3.8円	-	2.1円	-

※当期純利益は、親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益です。

※2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額は以下の通りです。利益への影響は軽微です。

売上高は、金型費用回収の一括認識により13億円増加、客先受給品の売上高と売上原価の相殺表示により53億円減少を見込みます。

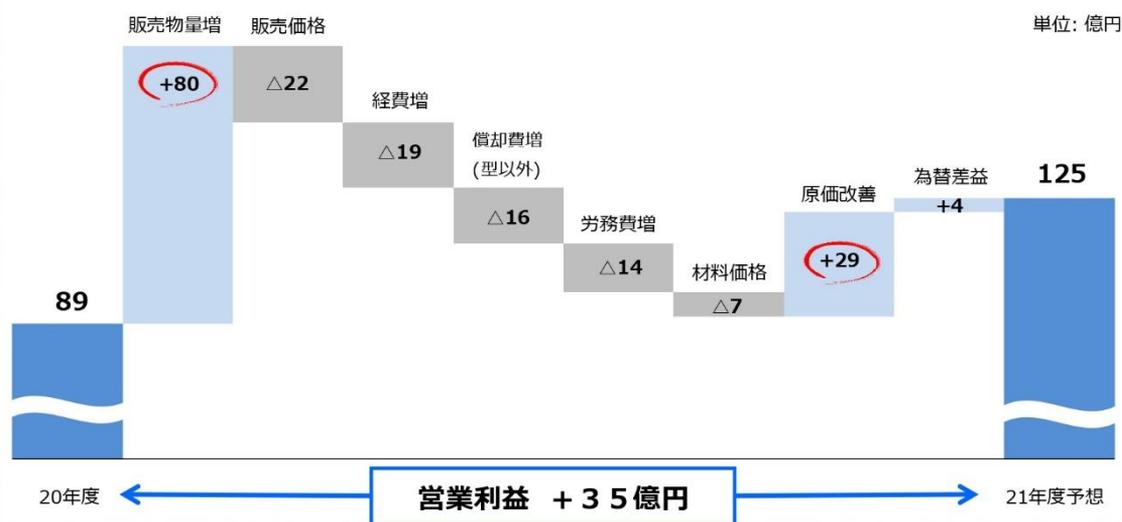
8/15

1Qの利益が過去最高となるなど、好調であったこと、最新の顧客の計画等を踏まえ、上期と通期の業績予想を上方修正しました。

通期の売上高は、前回予想 1,560 億円であったのを 5%増収の 1,640 億円、営業利益は 95 億円から 31%増益の 125 億円に見直しています。想定為替レートは 2Q が 1 ドル 110 円、3Q、4Q が 105 円です。為替感応度は 1 円につき、年間 1 億円です。

2-2 通期 連結営業利益 増減要因

販売は回復を想定。継続的な原価改善で増益を見込む



9/15

通期の営業利益は、前期より 35 億円増え、125 億円を予想していますが、増産による労務費、経費の増加を抑えながら、引き続き収益改善に注力していきます。

2-3 通期 連結事業別セグメント



プレス・樹脂、バルブともに増収増益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	20年度 実績	21年度 予想	増減	増減率	20年度 実績	21年度 予想	増減	増減率
プレス・樹脂	1,045	1,138	+92	+8.9	39	61	+21	+55.9
(収益認識適用の影響)		(△40)						
営業利益率					3.7%	5.4%	+1.7P	
バルブ	457	499	+41	+9.1	49	64	+14	+28.0
(収益認識適用の影響)		(+0)						
営業利益率					10.9%	12.8%	+1.9P	

※2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。利益への影響は軽微です。

10/15

プレス・樹脂事業の売上高は前期比 8%増の 1,138 億円、営業利益は 55%増の 61 億円と予想しています。なお、収益認識基準の適用による影響で、売上高は 40 億円の減少を見込んでいます。その内訳は、金型費用回収の一括計上の影響で 13 億円増加、客先受給品の相殺表示による影響で 53 億円の減少となります。

バルブ事業の売上高は、前期比 9%増の 499 億円、営業利益は 28%増の 64 億円と予想しています。当事業セグメントにおいては、収益認識基準の適用による影響は軽微です。

2-4 通期 連結地域別セグメント



日本、欧米、アジアいずれも増収増益を見込む

(億円、%)

	売上高				営業利益			
	20年度 実績	21年度 予想	前期比 増減	前期比 増減率	20年度 実績	21年度 予想	前期比 増減	前期比 増減率
日本	702	740	+37	+5.3	51	71	+19	+37.1
(収益認識適用の影響)		(△40)						
営業利益率					7.4%	9.6%	+2.2P	
欧米	523	586	+62	+11.9	15	28	+12	+78.6
営業利益率					3.0%	4.8%	+1.8P	
アジア	277	314	+36	+13.0	18	24	+5	+26.3
営業利益率					6.8%	7.6%	+0.8P	

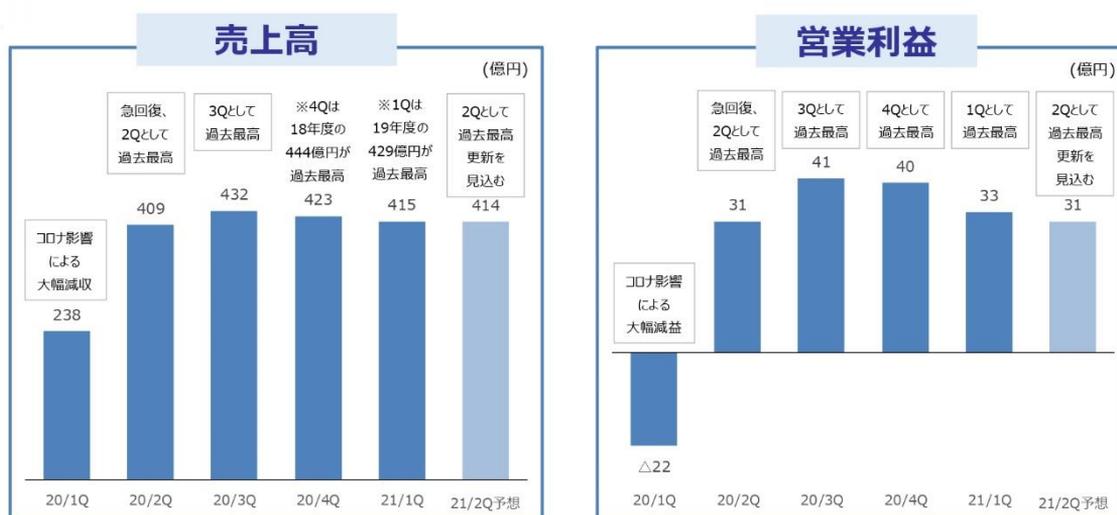
※2021年度より収益認識会計基準を適用しております。売上高への影響金額(内数)は上記の通りです。利益への影響は軽微です。

11/15

日本の売上高は前期比 5%増の 740 億円、営業利益は 37%増の 71 億円、欧米の売上高は 11%増の 586 億円、営業利益は 78%増の 28 億円、アジアの売上高は 13%増の 314 億円、営業利益は 26%増の 24 億円と予想しています。

2-5 四半期別 連結業績推移

各四半期において、同期比で過去最高を更新

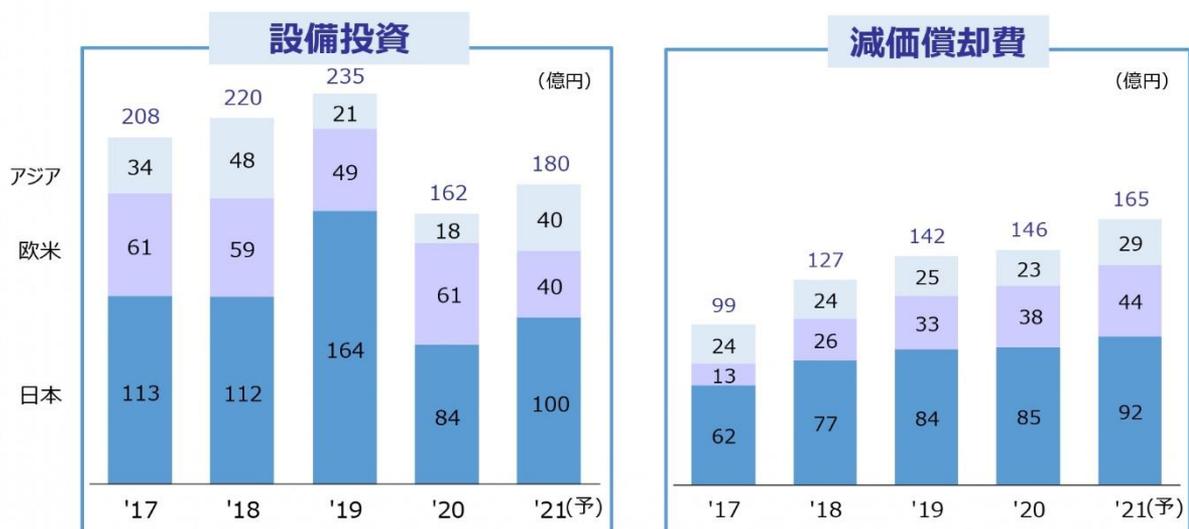


12/15

前期の1Qはコロナ影響により、大幅な減収減益となりましたが、2Q以降、生産回復と当社の体質改善により、四半期ごとの売上高や営業利益は、同期比で過去最高を更新してきました。今期2Qも、過去最高の更新を見込んでいますが、足元の生産変動もあることから、引き続き収益改善に取り組んでいきます。

2-6 連結設備投資・減価償却費

設備投資は効果の大きなもの・早く出るものを優先して実施



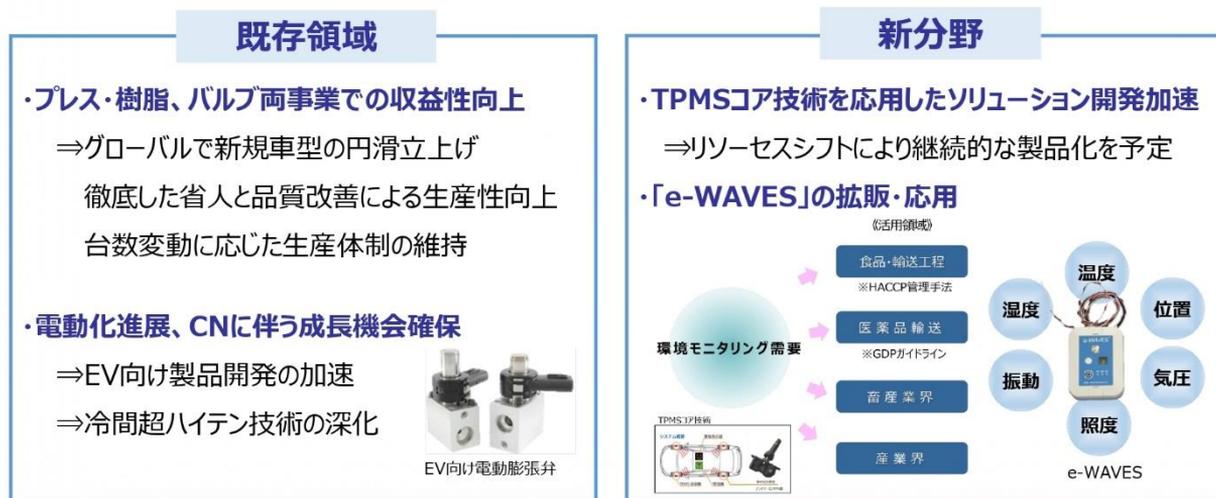
13/15

昨年度に続き、今年度の設備投資も効果のある必要な投資を見極めて実施しており、設備投資は180億円、減価償却費は前期比19億円増加の165億円を予定しています。

コロナ禍にあっても、将来の成長のための投資を継続しており、新製品立ち上げに伴う生産準備の他、日本、北米、中国の主要3拠点で建屋拡張、大型プレス機追加等に投資をしています。また、生産能力増強に加えて、生産設備の再配置を行うなど、より効率的な生産体制の構築に努め、お客様のニーズに応じてまいります。

3 今期重点取り組み

既存領域の拡大と新分野へのリソース投入で持続的成長をめざす



15/15

コロナ影響による前期売上高の落ち込み対し、われわれは強い危機感を持って収益改善を進めてきたことで、バルブ事業では市場の回復は遅れていますが、収益については19年度並みに回復しています。

プレス事業については、これまで実施してきた大型プレス機の投資回収が進みつつあり、この1Qは大きな利益を出すことができました。プレス・樹脂、バルブの両事業で生産性・収益性が向上し、体質強化につながったことを実感しています。今期も、半導体不足やコロナ影響による生産停止等、先行きが不透明な部分もありますが、当社グループは引き続き、感染防止対策を徹底し、安定した事業運営を行っていきます。

また、電動化とカーボンニュートラルへの取り組みは、当社グループの成長機会ととらえ、関連製品の開発を加速しています。バルブ事業は、EV化によりヒートポンプ式カーエアコンが拡大し、このシステムに使用される電動膨張弁の需要拡大が見込まれることから、グローバルで開発・拡販を推進しています。

プレス・樹脂事業は、EV化に伴う軽量化ニーズが増しており、構造解析技術および冷間超ハイテン成形技術の進化に努め、更なる拡販につなげていきます。

また、医薬品や食料品の輸送品質管理に活用できるマルチセンシングロガー「e-WAVES」は、4月に販売開始し、ワクチンの輸送や温度管理等に活用されており、社会課題の解決に役立っています。

引き続き、既存領域の拡大と新分野へのリソースシフトを進め、持続的成長を目指します。

以上